

# 令和3年度 児童・生徒福祉作文コンクール 入賞作品集



高栄小学校 R3. 12. 9



北光小学校 R3. 12. 8



相内中学校 R3. 12. 9

社会福祉法人 北見市社会福祉協議会

※表彰式を予定していました「ふれあい広場」が新型コロナウイルス感染拡大のため中止となったことから、12月3日～9日の全国障がい者週間に合わせて学校へ訪問し、表彰させていただきました。

# 目次

はじめに

総評・審査員名簿

一頁  
二頁

## 【小学校低学年の部】

おてつだいをしたいきもち

高栄小学校一年

鈴木 路佳

三頁

耳がきこえない人のきもち

高栄小学校三年

鈴木 信一

四頁

## 【小学校高学年の部】

障がいと偏見

北光小学校六年

高木 彩羽

五頁

私のかんちがい

北光小学校六年

遠島 芽依

六頁

障がいのある人の気持ち

北光小学校六年

大倉 幸大

七頁

差別のない世界へ

北光小学校六年

國奥 歩愛

八頁

障がいのある人はかわいそうじゃない

北光小学校六年

白川 美羽

九頁

障がいについて体験してみて

北光小学校六年

武田 柁永

十頁

## 【中学生の部】

周りの人の支え

相内中学校一年

楨本 羽美

十一頁

すべての人に幸せを	.....	相内中学校一年	小野 芭菜	.....	十二頁
福祉について	.....	相内中学校一年	佐藤 心美	.....	十三頁
障害者体験について	.....	相内中学校一年	多田 なち	.....	十四頁
福祉の事を勉強して思った事	.....	相内中学校一年	伊藤 柚花	.....	十五頁
たくさん知れたこと	.....	相内中学校一年	岡田 玲菜	.....	十六頁
普段の暮らしに幸せを	.....	相内中学校一年	高橋 駿太	.....	十七頁

## はじめに

学校現場での『総合的な学習の時間』が導入され、21年が経過しており各学校においてボランティア活動などの福祉体験や高齢者・障がい者との交流が増えていることは大変喜ばしく思います。

国が目指す「地域共生社会」の実現に向け、誰もが住み慣れた地域の中で「ふつうに・くらせる・しあわせ」を築く地域福祉の推進が重要です。

そのためには、将来の地域の担い手となる子どもたちが、幼少期から福祉に触れ、優しさや思いやりの心を育むことが必要です。

こうしたことから北見市社会福祉協議会は、子どもたちに福祉への理解と関心を深めてもらうとともに、家族や地域の方々にも福祉意識を高めてもらうため、『児童・生徒福祉作文コンクール』を実施しております。毎年、福祉関係団体で開催する「北見市ふれあい広場」で表彰式を行っていましたが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ふれあい広場の開催が中止となりましたことから、障がい者週間に合わせて各学校に訪問し表彰状を授与させて頂いております。

また、本年度からスタートしました『第4期地域福祉活動計画』を基に、「地域づくりを主体的に担う人づくり」として、福祉教育の取り組みを推進し、担い手育成を目指すことを位置付け実施しております。

福祉作文コンクールの実施にあたりまして、市内の小中学校・高等学校の先生方並びに児童・生徒及び保護者の方々に格別なご配慮とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

本作品集を是非ご一読いただき、貴校の今後の福祉教育の取り組みに繋がることをご期待申し上げます。

結びに、本作品集の作成にあたり、多大なるご尽力をいただきました審査員及び関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後の地域共生社会実現に向け、福祉教育の取り組みが一層推進されますことをご期待申し上げ、お礼のことばとさせていただきます。

令和3年12月吉日

社会福祉法人 北見市社会福祉協議会  
会 長 五十嵐 俊 啓

## 総 評

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もありましたが、小学校から69点、中学校から13点、合計82点の応募がありました。

今回の作文は、授業で行った福祉に関する講話や車いす等による体験、また身近な人との関わりを通して、強く心に残ったことや自分にできることは何かと自分自身を見つめ、今後の生き方に生かそうとする強い決意が表現された作品が多くありました。

まず、小学校低学年の部で受賞された作文では、本を読んで福祉について考えたことや聴覚障害の方との会話を通して感じたことについて、相手の立場になって物事を捉え、自分事として福祉を実感した作品などがありました。

次に、小学校高学年の部で受賞された作文では、福祉の学習を通して障がいへの理解を深めた作品が多く見られました。

その中でも最優秀賞の高木さんの作文では、「障がいと偏見」に目を向け、福祉の内面に迫る考えを自分の言葉でしっかりと訴えていました。外部講師の「偏見を行動に移した瞬間差別になってしまうから」という言葉を受け止め、困っている人がいたらそっと手助けできる人になりたいと未来に向けた決意が述べられていました。

次に、中学校の部で受賞された作文では、相手の立場を考えた多面的な視点から福祉を捉えた作品が多くありました。

その中でも最優秀賞の槇本さんの作文では、「周りの人の支え」について、授業で行った福祉体験を通して、何気ない言葉がけや相手への思いやりが障がいをもった方々にとってどれほど大切なものを改めて考えたことについて丁寧に表現されていました。

これからも、北見市はもちろん、すべての街がさらに住みよい街、やさしい人であふれる街になるよう、そして、皆さんの温かい思いが、世の中の全ての人に広がっていくことを願って、講評といたします。

最後に、受賞されました皆さん、おめでとうございます。

審査員代表

北見市教育委員会学校教育部  
指導主幹 加藤 智子

令和3年度児童・生徒作文コンクール審査員	
氏名	所属・役職
武田 雅弘	北見市保健福祉部・部長
加藤 智子	北見市教育委員会学校教育部・指導主幹
仲野 悠子	北見市心身障害者（児）団体連合会・理事
橘井 弘子	北見市民生委員児童委員協議会・会長
五十嵐 俊啓	北見市社会福祉協議会・会長

【小学生低学年の部】優秀賞



おてつだいをしたいきもち

北見市立高栄小学校一年 鈴木 路佳

わたしはヘレン・ケラーをよみました。ヘレンは、ちいさいときびょうきでめがみえなくなりました。みもきこえなくなりました。でも、べんきようをがんばって、だいがくへいきました。そして、そつぎょうしました。

わたしは、めもみえます。みもきこえます。もしみえなかったら、わたしはともだちとあそべないです。みみがきこえなかったら、こわいです。りゆうは、おはなしがきこえないからです。でもヘレンはべんきようをがんばりました。



ともだちがめがみえなかったら、わたしはいっしょにてつだいたいです。みみがきこえなかったら、いっしょにおかいものにいきたいです。

わたしはめもみももんだいなんです。だから、ヘレンのようなひとにてつだいたいしたいです。

【小学生低学年の部】優秀賞



耳がきこえない人のきもち

北見市立高栄小学校三年 鈴木 信一

私は、望月さんに耳の聞こえないことについてしつ問しました。望月さんは生まれた時から耳が聞こえませんでした。三才から人工内耳で半分は聞こえるようになったそうです。今、大学でべんきょうしています。どうやってべんきょうしているか聞いてみました。

大学は、聞こえない人にもちゃんとおしえてくれるそうです。先生の話しは、ノートテイカーがパソコンで書いてくれて、それを見てべんきょうできると話していました。大変なことは、研究室の会議で他の人の話したないようにかんぜんに理かいてできないことだそ

うです。しかし、みんながやさしくメモをとってくれるので大体は理かいてできるそうです。

今回わたしははじめて耳の聞こえない人と話しました。望月さんの周りにはたすけてくれる人がたくさんいることを知りました。最後に望月さんは、紙に書いてもらえるとうれしいと言っていました。これからわたしもこのことを覚えておきたいと思います。



## 【小学生高学年の部】

最優秀賞



### 障がいと偏見

北見市立北光小学校六年 高木 彩羽

「知的障がい者、と聞いてどんな人を思い浮かべますか？」

そう、テルベの大石さんに問われた時、私は思い浮かべることができなかつた。それは、私の周りに知的障がい者がいないから。出会ったことがないから。でも、後で調べると、だんだんわかってきた。小さい子供の場合、上手にコミュニケーションをとれないこと。行動のコントロールが難しいこと。でも、見た目は一般的な日本人とあまり変わらないこと。たったそれだけで「障がい」のわくに入られるのか、と私は思った。

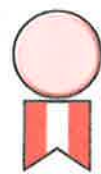
私が総合の時間に体験した障がいは、車いすに乗った人、目の不自由な人など何かしら外見に特徴のある人達だった。きっと、私がみなさんに「障がいのある

人を思い浮かべてください」と言ったら、先程挙げた、外見に特徴のある人だろう。でも、一口に障がいといっても、目に見えるものだけではない。一度見ただけではわかりづらい障がいもある。初めに挙げた知的障がいもそうだろう。その誰が障がいをかかえているかわからない状態で、周りの人をどれほど気づかえるかが重要だと思う。

最後に、テルベの方は「偏見は心に、頭にわきあがってくるけれど、それはおさえることが難しい。だから、偏見が脳裏をよぎるのは仕方がない。でも、それを行動に移しちゃダメ。なぜなら、偏見を行動に移した瞬間差別になってしまうから。」とおっしゃっていた。それは当時の私になかった考え方だったが、聞いた時「確かにそうだ」と思った。私はこれから、困っている人がいたらそっと手助けできる人になりたい。



## 【小学生高学年の部】優秀賞



私のかんちがい

北見市立北光小学校六年 遠島 芽依

私は、大石さんの話を聞くまで障がいのある人のことをかんちがいでしていました。

四月三十日体育館でテルベで働いている大石さんが、障がいのある人の仕事について話してくれました。「障がいがあっても、機械ちようせつはできるし、印刷機オペレーターなどもできます。」と話していました。その話を聞くまでは、障がいのある人は何もできない人だと思っていました。でも障がいがあっても仕事はできるのだという事がわかりました。

次に、大石さんが話してくれた事は「障がいのある人を助けてあげている、じゃなくしておたがい協力しているチームプレー。」だという事でした。その話を聞くまで私は、協力していくのが難しくチームでする事も

難しいため、個人でしかできないと思っていました。でもその話を聞いて私は、障がいのある人もない人もみんな協力することができるといいう事を知る事ができました。

三つ目は、「障がいがあるからいやじゃなくて、人はそれぞれちがうのが当たり前なだから、自然と受け止めてほしい。」という事を話していました。私はその話を聞くまで、障がいのある人となない人を区別して意識していました。また、障がいのある人を苦手だなど思う事もありました。でもその話を聞いて、障がいのある人がいても他の人と同じく接していく事が大切なんだという事を知りました。

私は、大石さんの話を聞いて自分が今まで思っていたことがかんちがいである事を知りました。また、とても勉強になった事がたくさんありました。今後は、障がい者の人と会える機会があったら、いっしょに話をしてみたいしお仕事などもしてみたいなと思いました。

## 【小学生高学年の部】佳作

### 障がいのある人の気持ち

北見市立北光小学校六年 大倉 幸大

僕は障がいのある人がかわいそうだと、大丈夫かなと特別扱いしていました。でも、障がいがあると考えた体験をして考えが変わりました。

これは、不自由な人の体験をしたときのことです。自分は特に不自由にならなかったことがないので、これほど大変だとは思いませんでした。車イスの体験では道路や横断歩道をわたるのに時間がかかって、車のじやまになつていたので危ないと思いました。北見市社会福祉協議会の人や介護してくれた人たちがいて助かったものの、足の不自由な人たちでも青信号のうちにわたれる信号機、急な坂でものぼりやすくなるスロープなどの設備が整っていればいいと思います。また、指が不自由な人には痛みをやわらげたり動きやすくしたり

するためのサポーターがあれば不自由なく生活できるとおもいます。

しかし、いくら安全に不自由なく生活を送れたとしても、障がいのある人への特別感を持つていてはだめだと思います。なぜなら、いつ自分になるか分からないものに特別だと思つていては自分が特別あつかいされた時に悲しくなつて何も言えなくなつてしまいます。そうなると障がいのある人は仕事に制限がかつたり、遠ざけられたりしてしまいます。そんな悲しい社会は嫌です。だれもが平等に生活するためには人それぞれ得意なことを生かし、活動することが大切なのです。

いつ、だれが持つか分からない障がいを思いやり、障がいがある事による不平等をなくすためには健常者、障がい者の両方がたがいに精いっぱい助け合い、おたがいを理解して個性をのばしながら、苦手な事を補い合う事が必要なのです。

## 【小学生高学年の部】佳作

### 差別のない世界へ

北見市立北光小学校六年 國奥 歩愛

「障がい者」と考えると悪い印象を思いうかべる人が多いと思います。私もその一人だったと思います。

でも、テルベの方が来て下さって障がい者について教わりました。その時、大石さんの話の中に、特色を生かし平等な立場で違いを大切にとの言葉がありました。違いを大切になど思ったことがなかったです。でも大石さんが言っていた、障がいも個性の一つという言葉に健常者との違いと同じように、障がい者も同じだと思いました。

車いす体験をしました。初めは「自分が歩かないから楽じゃない？」と思っていただけですが段差は一人で上がれないし、道路だとガタガタでこわかったし、思っていたより難しいことがたくさんありました。特に信号が赤になるのが速くてびっくりしました。自分がふだん歩いていると信号はおそく感じます。車いすと歩

くのですごく違いがあり、びっくりしました。

私は、視覚体験と屈曲困難、筋力低下体験、手指機能低下体験をして、一番こわかったのは視覚体験です。理由は、自分のいる場所や周りに何があるのかわからなくて、介助されていても、ちがう方向に行ってしまったからです。

私が介助してみると、私と同じように友達も左右がわからなくなっていて、なかなか前に進めませんでした。

私は、障がい者の体験をして思ったことがあります。私の日常がこういう感じだと、すごく大変でいつでも介助が必要になると思います。テルベで仕事をしている人や、障がいの人たちは、いつも大変な生活を送っていると思うから、これからもし、障がい者や、困っている人がいたら、助けてあげようと思いました。

テルベで働いている人は、むずかしいことも、人に対する気遣いもできてすごいと思いました。健常者も、障がい者と同じ人間であり、みんな同じだと思いました。

なので、これからは、みんな平等で、差別のない世界にしたいと思いました。

## 【小学生高学年の部】佳作

障がいのある人はかわいそうじゃない

北見市立北光小学校六年 白川 美羽

私は、障がいのある人はかわいそうじゃないと思います。なぜなら障がいのある人は毎日私たちと同じように生活し、大変な事があっても力強く大きなかべのりこえてきたからです。

四月二十日私は、学校内ではじめて車いす体験をしました。私は、一度だけ一人で車いすを動かしました。動かしてみると車いすが重くて前に進むのもすごくうでの力を使いました。私は改めて車いすにのっている人はすごいなと思いました。

四月二十八日に外で車いす体験をしました。道がすごくがたがたしているのですごく大変でした。

四月三十日はテルべの人達が来てくれました。テルべでは従業員の二十人ぐらいの人が障がいをもって

ます。ですが、障がいのある人でも機械調節や、パソコン入力もしているそうです。私は障がいのある人でもできる仕事はたくさんあるのだと思いました。

私は、障がいのある人たちが「障がい者はおぼえがわるいから仕事がない。」「車いすのり方下手だから助けてやった。」とかの声をたまに聞きます。ですが私はテルべの人達の話しを聞いて障がいのある人でもできる仕事は、たくさんあると思うし、障がいのある人たちはたくさん大きなかべを力強くのりこえてきたと思います。

私は今までの事をふくめてこれから、もっと障がいの事をたくさんおぼえ、障がいのある人にも差別しないでこれからは、障がいのある人でも美容師や、調理、かんごしや色々な仕事がたくさんできるようになってほしいなとすごく思いました。

## 【小学生高学年の部】佳作

障がいについて体験してみて

北見市立北光小学校六年 武田 柊永

私は最初、障がい者は私たちよりもできることの少ない人たちのことだと思っていましたが、私は障がいについて見たり、体験したりして感じたことがあります。

まず初めに車いすの体験をしました。校内や学校の周りを進んでいると、段差や階段は人に手伝ってもらわなきゃできない所が多いなと思いました。

その次は、テルベについて話を聞きました。ここでは、テルベさんへの質問だったり、障がい者も高れい者も出来たりすることや、こくふくの仕方について学びました。テルベはそれぞれの特性を生かし、平等な立場で就業可能な職場ということやノーマライゼーションなどいろいろなことが分かりました。私はこれを

聞いて思いました。「障がい者も高れい者も自分たちも苦手なことはある。だったらみんな変わりはないんじゃない。それに最近は高れい者も障がい者もみんなが過ごしやすい町作りが進んでいるし、障がい者も高れい者も出来ることは同じだから、私たちと変わりはないな。」と思いました。テルベの話を聞くと私は、障がい者も高れい者も同じ、苦手なことはだれにでもある。と思い、障がい者や高れい者がこまっていたら助けあげられればいいと思いました。そして、別の日には、高れい者について体験してみました。目が見えない視覚体験をし、歩くのが難しかったり、屈曲困難と、筋力低下の体験をし、道具をつけ、さあ歩こうと思って歩こうとしたら、ひざがまがらず、あしを持ち上げようとしたら重かったりと大変でした。手指機能低下の体験では、手にゴム手ぶくろをつけ、はしで物をつかんでみました。いざ、つけてやってみると、持ちにくかったです。持てたとしてもまたおちてしまい、大変でした。でも、高れい者の気持ちや障がい者の気持ちがわかった気がしました。

【中学生の部】最優秀賞



周りの人の支え

北見市立相内中学校一年 榎本 羽美

私は、障害者ではありません。大きな病気にかかったこともありません。あなたは障害についてどう思いますか？

私の学校では、六月に「体の不自由な方がどのようなことで不自由を感じるのか考えよう。」という授業がありました。その授業内容は、車椅子を押したり、押してもらったりして、段差や坂道などのコースをペアで回る、車椅子体験。アイマスクをし、介助をしたりされたりするアイマスク体験という授業内容でした。

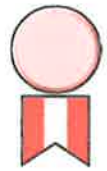
車椅子体験では、私達は初めて車椅子を押したり押してもらったりしました。私は最初、友達を介助する側の人でした。私は、緊張しながらも、ゆっくり車椅子を押していると、「速い、速い、こわい！」と友達が

言ったのです。私はとても、びっくりしました。なぜなら、私はいつもの何倍もゆっくり歩いていたからです。少し混乱しつつも、友達が不安にならないよう段差の上り下りの時に声のかけ忘れのないようにしました。次に私が車椅子に乗る番です。車椅子に乗り友達に車椅子を押してもらおうと、思ったよりも速く、「ちよ、ストップ！」と言ってしまいました。ここであの時友達が言った、速い、こわいなどの言葉を思い出しました。

次にアイマスク体験をしました。私が介助をしてもらっていると、いつも歩いているはずの校舎がまったく知らない場所なのではないかと思うほど、どこにいるのかわからず、不安になりました。ですが介助をしてくれた方がていねいに「ここから階段だよ。」など教えてくれたので安心できました。

私は、たくさんのかわさを知りました。障害がある方は、常にこんなにこわいんだなと思いました。ですが、このこわさは、周りにいる家族、友達に助けなくてもえば少しは解消すると思いました。なので、少しでもみんなが不安を解消できたらいいなと思いました。

【中学生の部】優秀賞



すべての人に幸せを

北見市立相内中学校一年 小野 芭菜

私は、総合の時間に福祉について学びました。その中でも印象に残っていることが二つあります。

一つ目は、ユニバーサルデザインを調べて発表したことです。私はセンサー蛇口について調べているとき、非接触で衛生的だし、自動で出るので便利なものだなと改めて思いました。他の人の発表で体温計やカレンダーなど身近な物もあったり、障害者や健常者でも使いやすいような文房具などもあったりして、驚きました。とても関心をもつことができました。

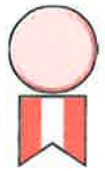
二つ目は、車椅子・アイマスク体験をしたことです。車椅子体験で介助者をしたとき、段差を上るときやマットの上は、とても力が必要で思った以上に大変でした。段差があるときには声かけが大切だなと思いま

した。

車椅子に乗る人を体験したとき、普段は低く感じていた教だんの段差がとても高く感じました。段差があるときは声かけをしてもらえると安心しました。アイマスク体験で全盲の人を体験したときは、介助者の腕をつかんだり、声かけをしてもらったりしないと、何がどこにあるのか全然わかりませんでした。介助者をしたときは、事前に物の場所を伝えたり、こまめに声をかけたりしました。でも上手に誘導するのは難しかったです。視覚障害にも光は見えたり、何も見えなかったりと人によって程度がちがうということがわかりました。介助者や障害者の感覚や気持ちなどを知れて良い経験になりました。

私は、障害のある人を特別な目でみたり、接したりしないで、困っていたり、手伝ってほしいと言われたりしたらできることをしたいです。

## 【中学生の部】優秀賞



### 福祉について

北見市立相内中学校一年 佐藤 心美

私が福祉について印象に残った事は、ユニバーサルデザインと障がい体験です。ユニバーサルデザインでどんなデザインがあるか調べてみると、文ぼう具類など私が見たこともない物がたくさんあってびっくりしました。目が見えない人でも使える物がけっこうあってすごいい었습니다。

次は障がい体験です。障がい体験は、実際に車椅子体験の押す側と、乗る側をやりました。押す側は力がないと大変で、声かけも大切です。段差がある時は、ゆっくり上げないといけなくて、段差を下りる時は一回まわって、うしろから降ろすので、けっこう時間がかかってしまいます。

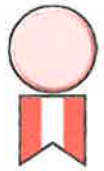
また、アイマスク体験は、全盲の人がどんな世界か

を感じているか知るために、アイマスクをして体験する方と、どこに何があるかを言う誘導する人をやりました。アイマスク体験をしている時は、どこに段差があるかとか、視界が何にも見えなくてどこかにぶつかりそうでもとでもこわかったです。階段は、いつも上り感覚がわかっていたので、私にとっては指示が無くても上れました。段差がある時は、声かけをしてくれて分かりやすかったです。アイマスク体験をしていると、右左が分からなくなると本当にあっちで合っているか不安になりました。声かけをしている時に私がちゃんと声かけをしなかったから階段からすべらせてしまいました。声かけする側は意外に難しいんだなと思いました。

ユニバーサルデザインの中のルービックキューブは、色によってルービックキューブの形があつて、全盲の人でも皆と差別なく楽しく遊べました。ユニバーサルデザインはすごいなと思いました。障がい者体験は、誰にでも起こり得る身近なものなんだなと勉強になりました。これから障がい者の方に会って困っていたら助けていきたいです。



## 【中学生の部】優秀賞



### 障害者体験について

北見市立相内中学校一年 多田 なち

六月十五日、五・六時間目に「車椅子・アイマスク体験」をした。その時に私が感じた事作文に書こうと思う。

まず私が車椅子に乗って思ったのは、動いている時や止まる時などに、体が前のめりになるので少し怖いということだった。特に、数段を上っている時、体が後ろに斜めになってまるでジェットコースターに乗っているようだった。普段、車椅子に乗っている人は坂を上る時、こんな感じなのかと思ったら自分は怖くて乗れないなと思った。

次に私は、車椅子を押す番になった。平らな所はゆつくり進むことだけを意識するだけだったが、どんどん進んで行くにつれて操縦が難しくなっていくって、ついに私が怖いと言っていた。教だんを上ることに became た。たいした力はいらないだろうと思っていたが、結

構力が必要で大変だった。足を使って、やっとの思いで車椅子を教だんの上に乗せることができた。私が車椅子を押してみte思ったのは、押す人は力と体力が無いといけないということと、しっかりと声をかけられることが大切だと思った。

五時間目が車椅子体験で、六時間目がアイマスク体験だった。これは、アイマスクをつけて、全盲障害者の体験をする。

この体験をして私が思ったのは、目が見えないということはとても怖いということだった。まず私は、アイマスクを付けて全盲障害体験をした。芭菜さんに補助してもらいながら、校内を歩いた。私は、大体校内の造りもわかってきたし、どこを通っているか等のことは思わないだろうと思っていた。それでも何も見えず、頼れるのは芭菜さんの声だけだったのでとても怖かった。しかし芭菜さんの声かけがとても上手で階段をふみはずしたりしなかったので良かったなとも思ったし、私も芭菜さんのように声かけできたら良いなと思った。

そして次に、私が補助する番になった。やっている時はバスの案内人のようで楽しかったが、階段のところを説明するのが難しく少し大変だった。

最後に全体を通しての感想を書きたい。私は、福祉

について、「ボランティアをしている」くらいの知識しか無かったが、この学習をして、福祉とはなんなのか学べて良かった。

## 【中学生の部】佳作

### 福祉の事を勉強して思った事

北見市立相内中学校一年 伊藤 柚花

私が福祉について色々な勉強をして印象に残っている事は、全部で二つあります。

一つ目は、障害体験です。障害体験では、アイマスク体験と車椅子体験をしました。アイマスク体験ではアイマスクをする人と、介助する人に分かれて、私は最初にアイマスクをしました。介助する人と一緒に学校の一部を回りました。いつも行っている場所だけなど目の前が真っ暗になると、進むのが遅くなり少しの段差でも怖かったです。でも介助してくれる人がいると、

安心して歩くことが出来るので助かりました。介助する側では、介助される人が安心できるように、声かけをすることが大切なんだと思いました。車椅子体験では、私が最初に車椅子に乗りました。最初は小さい段差だったけど、段差が大きくなるにつれて、かたむくので、とても怖かったです。あと、幅が狭い道では、落ちないか心配で、とても怖かったです。介助する側では、段差を登る時、車椅子の前輪を上げるために足でティッピングレバーという物を踏むことや、坂道で車椅子を押すことが結構力を入れないと、進まないの、とても大変でした。

二つ目は、ユニバーサルデザインです。私が調べたのは、自動販売機です。車椅子の人でも使いやすいようになっています。車椅子の人では届かない上の方のボタンが下に付いたり、手すりやテーブルが付いています。他にも身近にある文房具や、駅の改札、家庭内のユニバーサルデザインになっているものがあります。

このように福祉の事を勉強して、私はこれから福祉の事を知ってこれからの生活や、将来に活かしていきたいらいいと思いました。

## 【中学生の部】佳作

たくさん知れたこと

北見市立相内中学校一年 岡田 玲菜

私が学校で習った、障害体験とユニバーサルデザインについてまとめます。私がなぜこの二つにしたのかというと、障害者の大変さを知れたのと、ユニバーサルデザインの工夫の仕方が面白かったからです。

一つ目は障害体験についてです。障害体験で二種類体験しました。最初に、車いすを体験しました。二種類の高さの違う段差を車いすでのりました。一つ目の段差は、マットで、小さい段差でしたが、縦のはばが短くとても回りづらかったです。二つ目の段差は、教壇で、大きい段差で車いすで上にのる時に結構ななめっていて、声をかけてもらっても、怖かったです。

次に、アイマスク体験をしました。アイマスク体験では、全盲の人の感覚を味わいました。アイマスクを

して、廊下にでた時に、普段歩いている廊下よりも長くて、小さな段差でも怖かったです。一番怖かったのが階段です。声をかけてもらわないといつから階段が始まるのか分からなかったです。あと何段くらいか分からなくて怖かったです。障害者の怖さをたくさん知れてよかったです。

二つ目はユニバーサルデザインです。私が調べたのは、家の中に隠されているユニバーサルデザインです。私が印象に残っていたのは、力のいらぬペン、上げ下ろしできる棚です。この二つのユニバーサルデザインを考えた人はすごいなと思いました。その他にもたくさんユニバーサルデザインを知れてよかったです。これからは、自分の家の中に隠されているユニバーサルデザインを探してみたり、障害者を見かけたら周りに気をつけたいです。

## 【中学生の部】佳作

### 普段の暮らしに幸せを

北見市立相内中学校一年 高橋 駿太

ぼくは、総合の時間に勉強した福祉の中で、思い出が二つあります。

一つ目は障害体験では、車イスに乗っている人は案外小さい段差もこわかったので介助側はちゃんとていねいに教えてあげることが大切なんだと思いました。

アイマスク体験では、階段を上る時もこわかったしイスにすわるときや直線の廊下もこわかったです。でも階段を上り下りするときには手すりがあるものすごく助かりました。あと実際の距離よりもすごく長く感じました。アイマスク体験も車イス体験も介助側はていねいに声をかけてあげたり、ちょっととした段差も教えてあげた方がよりいい生活をできるのでいいと思います。障害体験では、その一部分しか体験できていない

と思うので、障害の人に限らずお年寄りの人にも、優しくした方がいいと思いました。

三つ目はユニバーサルデザインです。ユニバーサルデザインで、ぼくは色覚異常者の人のための信号を調べました。ボタンを押したら青の時間が長くなることや、普通の人も色覚異常者も同じ信号を使えることを知りました。他にもでこぼこの鉛筆や目の障害のある人でも使えるルービックキューブや車イスの人でも買える自動販売機や体温計などのユニバーサルデザインがありました。ぼくは調べる前まではユニバーサルデザインを全然知らなかったのですが、色々なユニバーサルデザインを聞いたり調べたりするうちに、ユニバーサルデザインへの興味がわいてきたのでこれからはもっと、増えていってほしいと思いました。

これまで学んできた防災、ユニバーサルデザイン、障害体験、ボランティアは全部、優しさや工夫でできているので僕も機会があったら、色々な人たちを助きたいなと思いました。

# ～福祉啓発事業～

## 令和3年度 児童・生徒福祉作文コンクール実施要綱

### 1. 目 的

次世代を担う小・中・高等学校の児童・生徒を対象に、福祉作文を通じて思いやりの心や助け合いの心を養い、家庭や地域の福祉意識を高めるとともに、福祉教育の一層の推進を図ることを目的として実施します。

### 2. 主 催

社会福祉法人 北見市社会福祉協議会

### 3. 後 援

北見市

北見市教育委員会

北見市心身障害者（児）団体連合会

北見市民生委員児童委員協議会

### 4. 募 集 期 間

令和3年5月24日（月）から7月16日（金）まで

### 5. 応募対象者及び方法等

(1) 応募対象者 北見市内の小・中学校及び高等学校に通う児童・生徒

(2) 題 材 本要綱の目的に添う内容で、自分の体験や身近な事柄に対する感想、意見などを述べた未発表の作品

(3) 原 稿 400字詰め原稿用紙に黒のボールペン又は、鉛筆（B）を使用し、氏名・学校名・学年を必ず記入し、事務局へご応募下さい。

字数は、小学生低学年（1～3年生）は300字～400字以内、小学生高学年（4～6年生）から高校生は、700字～900字以内を厳守とします。

（作文の題と学校名・学年・氏名は字数に数えません）

※指定している字数の範囲内をお願いします。

(4) 応募点数 1人1作品

(5) 応募方法 各学校で取りまとめた上で、別紙「令和3年度児童・生徒福祉作文コンクール応募者名簿」に記入の上、応募作品を添えて応募願います。

※個人で応募される場合は連絡先(氏名・住所・学校名・学年)を必ず記入し、応募してください。

## 6. 部門及び賞

### (1) 部門

- ①小学生低学年の部 ②小学生高学年の部 ③中学生の部 ④高校生の部

### (2) 各賞

- ① 最優秀賞 1点  
② 優秀賞 2～3点  
③ 佳作 3～5点程度

※ 入賞した方には賞状と図書カード、  
その他参加者全員に参加賞を進呈いた  
します。

## 7. 審査

### (1) 審査員

令和3年度児童・生徒福祉作文コンクールの主催者及び関係者による審査を行ない、入賞者を決定します。

### (2) 審査の視点

- ① 福祉の視点を持ち、共感や感銘が得られるもの。  
② 学年に応じた表現力があり、論旨が一貫しているもの。  
③ 自分の体験や身近な事柄に対する感想・意見であるもの。

## 8. 入選発表

各学校を通じて入賞者へ通知します。

## 9. 表彰式

### (1) 「令和3年度児童・生徒福祉作文コンクール」表彰式

と き 令和3年12月9日(木) 「障がい者の日」

と ころ 受賞者の学校への訪問を予定

※新型コロナウイルスの影響により、表彰式を予定しておりました「ふれあい広場」の中止が決定した為、表彰は昨年と同様、受賞者の学校へ訪問し実施いたします。

## 10. その他

(1) 応募作品は各学校に返却します。

(2) 入賞作品の著作権は、全て主催者に帰属します。

(3) 今回ご応募いただいた方の個人情報は、本コンクールの運営管理に使用する他、次のものに使用します。

- ① 入賞作品文集へ氏名及び学校名・作品、表彰式写真を掲載し、市内全学校へ配布。  
② 社協だよりへ氏名及び学校名、表彰式写真を掲載し、全戸配布。  
③ ホームページ及びフェイスブックへ氏名及び学校名・作品、表彰式写真を掲載。  
④ 報道機関へ氏名及び学校名・作品、表彰式写真の情報提供により掲載。

### <応募先>

〒090-0065 北見市寿町3丁目4-1 北見市総合福祉会館内  
社会福祉法人 北見市社会福祉協議会 地域福祉課 ボランティア係  
ボランティア市民活動センター  
TEL 0157-61-8181 / FAX 0157-61-8183



---

令和3年度  
児童・生徒福祉作文コンクール  
入賞作品集

令和3年12月

編集 社会福祉  
法 人 北見市社会福祉協議会

【社会福祉  
法 人北見市社会福祉協議会 地域福祉課ボランティア係】

北見市ボランティア市民活動センター

〒090-0065 北見市寿町3丁目4番1号

TEL 0157-61-8181 FAX 0157-61-8183

ホームページ <http://www.kitami-shakyo.or.jp/>

メールアドレス [vola-senter@kitami-shakyo.or.jp](mailto:vola-senter@kitami-shakyo.or.jp)

---